

道東ブロックトレセンU-11in帯広 報告書

期日 平成23年5月21・22日
会場 十勝川河川敷 サッカー場

1. 参加選手 (16名)

福島 龍乃介(厚岸) 風呂谷 晃平(コンバット) 小野寺 辰貴 (Rシュペルブ) 百瀬 瑞季 (昭和)
伊藤 大貴、小川 一熙、佐藤 雄大、田畑 翔希、畠山 椋、吉田 柚季 (城・清・武)
館山 透磨 (富原) 小野 大成、菅原 国照、沼澤 秀斗 (ドリーム)

※夏季トレセン選手23名から14名を選抜

2. スタッフ

中瀬満、新谷昭典、吉田聡、後藤雅宏、松下大介、本間彰、高橋雄一 (U-11 と併催)

3. はじめに

夏期トレセンスタート後わずか1回のトレーニングで試合に臨むこととなったが、今回の道東ブロックトレセン(以下BTC)に参加したメンバーは全員がU-10冬期トレセン時のメンバーであり、そこで行ってきたことがどの程度通用するかを試す試合となった。

4. 対戦結果

一日目	二日目
○ 3 - 0 VS 網走	△ 4 - 4 VS 十勝B
○ 3 - 1 VS 旭川	○ 4 - 2 VS 十勝A
○ 2 - 1 VS 根室	○ 3 - 1 VS コンサドーレ

vs 網走

得点 風呂谷2、畠山

	○ 畠山 (田畑)		
風呂谷 (吉田)	小野 (小川)	沼澤 (百瀬)	
佐藤 (風呂谷)	福島 (佐藤)	小野寺 (館山)	
	菅原 (伊藤)		

vs 旭川

得点 風呂谷、沼澤、小野寺

	○ 吉田 (沼澤)		
小野 (小野寺)	風呂谷 (福島)	館山 (田畑)	
沼澤 (畠山)	福島 (小川)	佐藤 (百瀬)	
	伊藤 (菅原)		

vs 根室

得点 小野寺、小野

	○ 館山 (小野)		
福島 (畠山)	小野寺 (小川)	小川 (百瀬)	
沼澤 (田畑)	風呂谷 (小野寺)	佐藤 (吉田)	
	菅原 (伊藤)		

Vs 十勝B

得点 畠山、小川、小野寺、吉田

	○ 畠山 (吉田)		
風呂谷 (沼澤)	小野	田畑 (館山)	
佐藤 (畠山)	福島 (小川)	百瀬 (小野寺)	
	伊藤 (菅原)		

vs 十勝A

得点 小野、吉田2、畠山

	○ 吉田 (百瀬)		
小野 (畠山)	風呂谷 (吉田)	館山 (田畑)	
福島 (佐藤)	小川	沼澤 (小野寺)	
	菅原 (伊藤)		

vs コンサドーレ

得点 風呂谷、福島2

	○ 吉田 (福島)		
畠山 (風呂谷)	小野	田畑 (館山)	
沼澤 (佐藤)	小川	百瀬 (小野寺)	
	菅原 (伊藤)		

5, 成果と課題

<成果>

○ポゼッション

⇒パスをしっかりとつないでゴールを目指す意識は浸透つつある。今後は攻撃の優先順位を意識しながら、ボール保持者に多くの選択肢を与えるよう周りの選手が常にかかわるトレーニングを行っていききたい。

○フィニッシュ

⇒ゴール前のチャンスを決めきるプレーに一定の成果が見られた。よりプレッシャーの厳しい中でも確実にゴールを奪えるよう継続的にトレーニングを行っていききたい。

○ボールを奪う

⇒パスコースを予測してインターセプトを狙ってボールを奪うことが多くできた。

<課題>

●パスの質

⇒狙いを持ってパスを出す選手が少ない。また、インサイドキックで強いパスが出せないため相手にカットされる場面が目についた。質の高いパスをトレーニングで日常的に求めていく必要性を感じた

●守備

⇒トレセンの中ではまだ守備に関するトレーニングを行っていないため、ある程度仕方ない面もあるが、特にポジショニングの悪さから失点することが多かった。今後は基本となる相手とボールの両方を観る意識など時間をかけて守備面のトレーニングを行っていく。

●ボール際の強さ

⇒相手との競り合いで負けることが多かった。精神面とも関係するが、マイボールにする意識を高めて局面での1対1でかちきることを求めていきたい。

●GKからのビルドアップ

⇒この課題については多くの時間を割いてトレーニングを行ってきた。選手が非常に積極的に取り組み、パスをつなごうとする意識は素晴らしい。ただ、パスの精度・判断の面ではまだ改善の余地があり、今後も引き続きトレーニングを行っていく。

6, まとめ

3月の網走での道東BTC後、選手達には課題をチームに持ち帰り自分で克服する努力してほしい、ということ传达了。特に「止める・蹴る・運ぶ」とサッカーのベースとなる個のスキルアップは週一回のTC活動では限界があり、日常的に取り組まなければ向上は望めない。実際に取り組んでいる選手(チーム)は技術面での進歩が見られ、そうでない選手との差が出てきているのも事実である。

今回の遠征で一番感じたことは、「うまい選手」でも「戦わない選手」は通用しないということであった。普段の試合であれば通用する「うまい選手」でも、道東では本気で戦わなければうまいだけのプレーはまったく通用しない。技術・メンタルの両面を備えていなければいい選手にはなれないが、本気で戦わなければ通用ない大会・試合を釧路で多く作り出したいものである。

この遠征最終のコンサドーレとの試合では、3対1で勝利することができた。もちろん勝つことだけが目標ではないが、試合終了後に泣き出す選手がいるほど本気で戦っていたコンサドーレを相手に技術・メンタル両面で良い場面が多く見られ、試合後勝利を喜ぶ釧路の選手達の笑顔が非常に印象的だった。

我々トレセンスタッフは釧路の一番ではなく、一人でも多くの選手が北海道トレセンに選出されるよう各チームの指導者のみなさんと共に取り組んでいきたいと考えております。今年度から月1回開催のBTCとなり、父母の負担、所属チームへの負担などの面もありますが選手の成長を考えると非常に効果的であり、プレイヤーズ・ファーストの観点からご理解をお願いします。

最後に本大会に参加するにあたり、多大なるご協力をいただいた各チーム関係者の皆様、保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともトレセン活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。